

広島市植物公園

見どころ案内

ニトベギク (キク科)

高さ 2m 以上になる大型のキクです。新渡戸稲造が日本に導入したことに因むとされていますが、園芸店などでは「ガリバーヒマワリ」や「皇帝ヒマワリ」の名前が付けられています。主に観賞用として栽培されていますが、沖縄では健康茶として飲まれています。

サルビア
イエローマジスティ

バラ (バラ科)

秋バラが次々と開花しています。気温が低下してきて形が整った良花が増えてきました。まだつぼみも多く、11月中は見頃が続きます。

ハイビスカス
アーノットティアヌス

パイナップル

カトレヤ (ラン科)

「洋ランの女王」とも呼ばれる、中南米の熱帯・亜熱帯原産のラン。現地では木の幹などに着生して生育しています。秋咲きのものが見頃となっています。

カカオ

アリストロキア ギガンテア

クロガネモチ (モチノキ科)

濃い緑葉と赤実のコントラストが美しいです。雌雄異株なので、赤い実が付いている株は雌株です。樹皮から鳥もちを作ることができますが、これで鳥をとることは鳥獣保護法で禁止されています。

スカーレットオーク

(ブナ科)

北米東部原産の落葉高木。深裂した葉が特徴的で、紅葉もきれいです。近くではドウダンツツジも赤く色付いています。

イソギク (キク科)

野生菊のなかまが見ごろを迎えています。イソギクは南関東から東海地方の海岸の岩場に自生する多年草です。

カエデのなかま

(ムクロジ科)

カエデ園では、紅葉が見頃になっています。また、園路には落ち葉が敷いてあり、落ち葉の絨毯を楽しめます。

トウカエデ (ムクロジ科)

葉が浅く3裂するカエデ属の一種。休憩展望塔付近に列植されており、夕方には見頃を迎えつつある紅葉が夕日に染まり非常に美しいです。

コダチダリア (キク科)

高さ数メートルにもなるダリアの一種で、「皇帝ダリア」の名でも流通しています。頭上を見上げると薄紫色の花が多数うつむき気味に咲いています。

カリン (バラ科)

樹上に黄色の果実をつけています。果実は固く生食に向かないため、蜂蜜漬けや果実酒に使われます。似た果実にマルメロがあり、果実の綿毛の有無で判別できます。(カリンは無毛)

子福桜 (バラ科)

10~3月にかけて白色~淡紅の八重の花を咲かせます。花一輪に複数の実が成ることからこの名前が付けました。十月桜や三波川冬桜も花をつけています。

展示会のご案内

- ◇展示資料館 (10/31~12/24) 被爆樹木展 75年目の記録
- ◇展示温室 (11/21~12/24) クリスマスを飾るフラワー展

